Europe Indicators

発表日：2022 年 2 月 14 日（月）

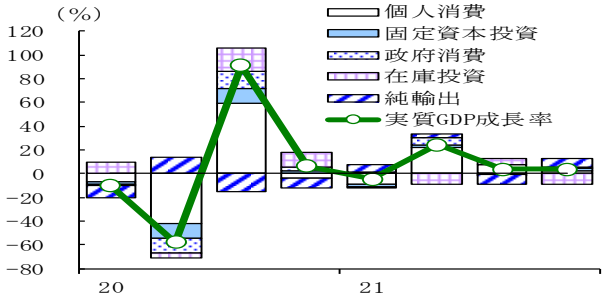
欧州経済指標コメント：10-12 月期英国GDP速報

～オミクロン株の影響は軽微～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理（TEL：03-5221-4527）

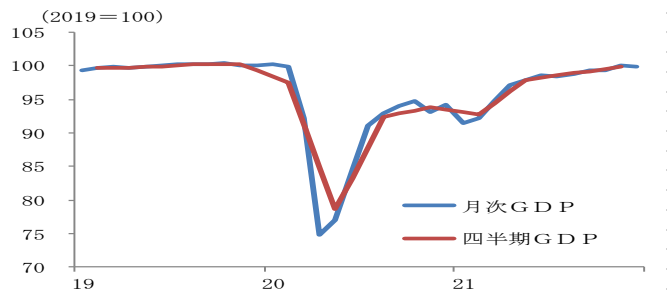
- 11日に発表された昨年10-12月期の英国の実質ＧＤＰ成長率の速報値は前期比＋1.0%、同年率＋3.9%と３四半期連続のプラス成長を記録。2021年通年では＋7.5%と大きくリバウンドしたが、2020年の落ち込み（▲9.4%）を取り戻すには至っていない。コロナ危機前の2019年10-12月期と比較して、実質ＧＤＰの水準は▲0.4%。1-3月期には危機前の水準を回復する公算が大きい。
- 昨年10-12月期は新型コロナウイルスの感染再拡大の時期と重なるが、過去の感染拡大時と比べて経済活動への下押しは限定的。需要項目別には、個人消費（前期比＋1.1%）、政府消費（同＋1.9%）、企業投資（同＋0.9%）、政府投資（同＋5.3%）、住宅投資（同＋2.6%）、輸出（同＋4.9%）が揃って増加。供給制約と需要回復を反映し、在庫投資が成長を下押しした。
- 同時に発表された昨年12月の月次ＧＤＰは前月比▲0.2%と５ヶ月振りのマイナス成長。前月にコロナ危機前のピーク時（2020年２月）を上回ったが、今月の落ち込みと前月の下方修正で危機前と同水準に後戻り。今月の落ち込みはサービス部門（同▲0.5%）が主導。感染再拡大で、宿泊・外食（同▲9.2%）、教養・娯楽（同▲4.4%）、卸小売（同▲3.2%）の落ち込みが響いた。製造部門（同＋0.3%）、建設業（同＋2.0%）、農林水産漁業（同＋0.4%）はプラス圏を維持。
- １月中は感染拡大が成長の足枷となるが、行動制限の解除を受け、２月の月次ＧＤＰは回復が加速する可能性が高い。ただ、原油・天然ガス価格の高騰を受け、向こう数ヶ月にわたって、エネルギー価格を始めとしたインフレ率の更なる加速が予想される。労働力不足とともに今後の景気回復を下押しする公算が大きい。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英統計局

■英国：実質GDPの推移



出所：英統計局

■英国ＧＤＰ（前期比年率＜%＞、括弧内は寄与度＜%ポイント＞）

	名目ＧＤＰ	実質ＧＤＰ	内需	個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	外需	輸出	輸入
20/1-3月期	▲ 4.1	▲ 10.1	(▲ 0.1)	▲ 10.6	▲ 8.3	▲ 9.5	(28.3)	(▲ 10.1)	▲ 44.3	▲ 22.3
20/4-6月期	▲ 43.0	▲ 57.9	(▲ 71.4)	▲ 59.0	▲ 54.5	▲ 55.6	(97.7)	(13.5)	▲ 38.2	▲ 63.0
20/7-9月期	56.5	91.1	(106.3)	104.0	94.6	81.9	(▲ 174.3)	(▲ 15.2)	2.9	73.8
20/10-12月期	6.6	6.1	(14.0)	▲ 5.6	15.8	15.8	(▲ 12.0)	(▲ 7.9)	30.7	69.1
21/1-3月期	0.7	▲ 4.6	(▲ 10.4)	▲ 14.7	6.9	▲ 6.7	(4.0)	(5.8)	▲ 25.2	▲ 37.1
21/4-6月期	17.0	24.6	(21.7)	39.1	34.6	8.8	(▲ 60.8)	(2.9)	31.2	18.2
21/7-9月期	5.9	4.0	(13.0)	12.2	▲ 0.1	▲ 1.0	(1.8)	(▲ 9.0)	▲ 17.7	15.2
21/10-12月期	6.3	3.9	(▲ 3.1)	4.4	7.8	9.0	(▲ 24.4)	(7.0)	20.9	▲ 5.9

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。